

# 水稻情報 (第5号)

あおば農業協同組合  
各地区農業技術者協議会

○6月25日現在、平年に比べコシヒカリの草丈は並、茎数は多く、葉齢は並みに推移しており、幼穂形成期は、5月10日植えて**7月9日頃**、出穂期は**7月30日頃**と予想されます。

○コシヒカリの分施肥体系の場合は、幼穂形成期8日後の生育状況に応じて、穂肥を施用しましょう。

基肥一発施肥体系の場合は、出穂7～10日前に葉色を確認し、葉色が薄い場合は追加穂肥を行いましょう。

○斑点米カメムシ類が多発しています。草刈りと防除の徹底で斑点米の発生を防止しましょう。

## 1. コシヒカリの生育状況

表. あおば管内のコシヒカリ生育状況(6/25現在、( )は予測値)

調査年	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂 形成期	出穂期
			本/株	本/m <sup>2</sup>				
R6	5/11	50.0	27.3	547.7	10.4	4.2	(7/9)	(7/30)
R5	5/10	47.9	23.5	477.5	10.3	4.2	7/9	7/30
H26～R5平均	5/10	49.4	24.1	496.5	10.3	4.3	7/9	7/31

## 2. コシヒカリの穂肥施用

～ほ場毎の適切な穂肥で収量と品質を確保～

○分施肥体系の場合

- ・施用前に幼穂形成期(幼穂長2mm)を確認し、時期を判断しましょう。
- ・穂肥は、幼穂形成期の8日後(幼穂長15mm、右写真)の生育状況に応じて下表のとおり施用しましょう。

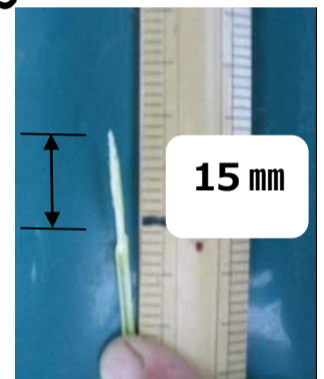


写真 分施肥体系の穂肥施用判断時期

表. 分施肥体系における穂肥(追肥3号)の目安

幼穂形成期の 8日後の生育状況		1回目		2回目	
		施用時期	施用量	施用時期	施用量
適正	草丈 85 cm未満 茎数 430 本/m <sup>2</sup> 程度 葉色 3.6 程度	幼穂長 15 mm (幼穂長 2 mm確認 8日後)	10	1回目の 7日後	10～13
やや 過剰	草丈 85 cm以上 90 cm未満 茎数 480 本/m <sup>2</sup> 程度 葉色 3.8 程度	幼穂長 20 mm (幼穂長 2 mm確認 10日後)	5～7	1回目の 7日後	10～13
過剰	草丈 90 cm以上 茎数 500 本/m <sup>2</sup> 以上 かつ葉色 3.8 以上	施用しない		幼穂長 2 mm確認から 15 日頃 (出穂 7 日前頃)	10～13

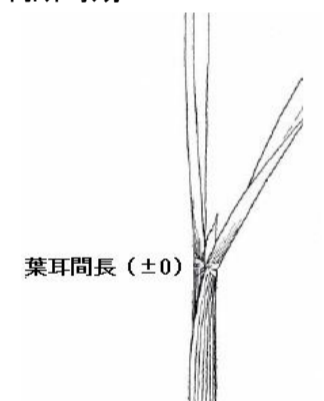


図 基肥一発施肥体系の追加穂肥施用判断時期

止葉の葉耳(葉の付け根)とその下の葉の葉耳が同じ高さにある時期(葉耳間長±0)が出穂10日前の目安です

○基肥一発施肥体系の場合

- ・出穂7～10日前(右図参照、**7/20～23**)に葉色を確認し、葉色が4.0(砂壤土4.2)未満と薄い場合は、出穂3日前までに追肥3号で**5～7 kg/10a**を施用しましょう。

## 3. てんこもりの穂肥施用

てんこもりの幼穂形成期は**7/15**頃、出穂期は**8/6**頃(5/15植え)と予想されます。

○分施肥体系の場合

- ・穂肥の1回目は幼穂形成期(幼穂長2mm：**7/15**頃)、2回目はその10日後に、追肥3号を10～13kg/10aずつ施用しましょう。

○基肥一発施肥体系の場合

- ・出穂14日前(**7/23**頃)の葉色が4.0(砂壤土:4.2)以下の場合は、出穂3日前まで速やかに追肥3号を7kg/10a施用しましょう。

熱中症対策や刈払機での作業時の安全確保等、安全対策に留意しましょう。

うら面に  
続く

## 4. 今後の水管理 ～フェーンや高温が予想されるときは事前に入水～

【幼穂形成期から出穂までは飽水管理】

入水→自然減水→足跡の水が無くなる前に入水、を繰り返す

出穂期

湛水状態(田面が出ない程度)

出穂後  
20日後

【収穫5～7日前までは間断かん水】

足跡の水が無くなったら入水する  
落水を急がない

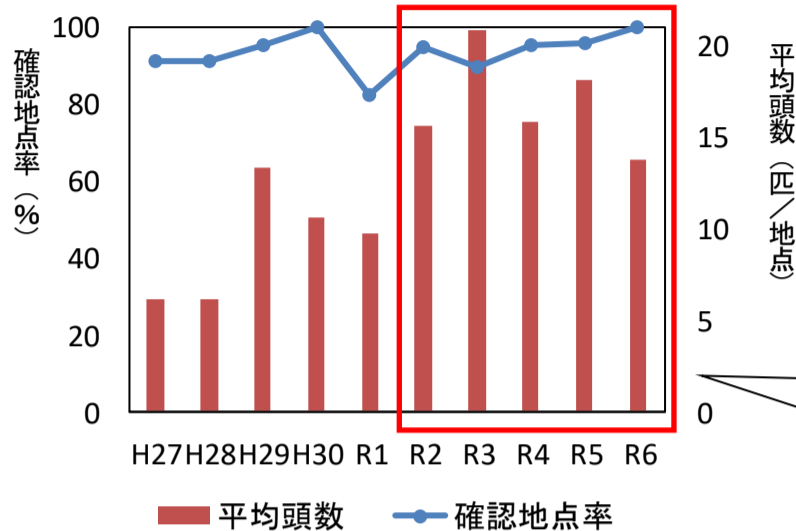
成熟期

収穫



## カメムシ対策 第5回

## ～カメムシ多発！草刈りと防除の徹底を～



近年、カスミカメ類だけでなく、クモリカメシやトゲシホカメシ等の大型の斑点米カメシ類の確認頭数が増えています。



図 畦畔・雑草地のカメムシ確認地点率と頭数 (JA あおば管内 6月下旬調査)

○イネ科雑草の穂が出ないように草刈り等を徹底しましょう(約3週間間隔)。

※ほ場内のヒエ等も穂が出る前に抜き取りましょう。

○やむを得ず穂の出ている雑草を刈る場合は、本田の薬剤防除の直前に行いましょう。

○農薬散布は下表を参考に水稻の出穂状況を確認して行いましょう。防除間隔は7日を目安とし、10日以上あけないようにしましょう(表)。

表 防除時期の目安(平坦地)～穂揃期+傾穂期の2回防除を徹底！～

品種 (田植時期)	てんたかく (連休植え)	コシヒカリ (5/10 植え)	てんこもり (5/15 植え)	薬剤名、散布量		対象病害虫
出穂予想	7/14～7/16	7/29～7/31	8/5～8/7			
1回目 穂揃期	7/17～7/19	8/1～8/3	8/8～8/10	粉剤	ビームスタークル粉剤 5DL 4kg/10a (収穫7日前まで)	いもち病 カメムシ類 ウンカ類
	↓7日後	↓7日後	↓7日後	液剤	ビームエイトスタークルゾル 1,000倍 100～150ℓ/10a (収穫7日前まで)	
2回目 傾穂期	7/24～7/26	8/8～8/10	8/15～8/17	粉剤	キラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	カメムシ類 ウンカ類
				液剤	キラップフロアブル 1,000倍 100～150ℓ/10a (収穫14日前まで)	
3回目 (多発時) 【随時】	収穫7日前 まで	収穫7日前 まで	収穫7日前 まで	粉剤	スタークル粉剤 DL 3kg/10a	カメムシ類 ウンカ類
				液剤	スタークル液剤 10 1,000倍 100～150ℓ/10a	

○農薬は使用基準を守って、正しく使用しましょう。また、風の無い時間帯に均一に散布して下さい。

### 【粒剤体系(コシヒカリの場合)】

1回目 : 7/23頃(出穂5～10日前)にワイドパンチ豆つぶ(250g/10a)を湛水してから散布する。

2回目(随時): 8/2頃(穂揃期)にスタークル豆つぶ(250g/10a)を湛水してから散布する。

畦畔まで薬剤が  
かかるように  
散布しましょう！



### 農薬危害防止運動実施中！(4/1～9/30)

住宅地周辺で散布する時は事前に周知し、飛散防止を徹底  
使用前には必ずラベルで作物名・使用方法等を確認  
農薬は適切に保管・管理し、使用した場合は必ず記帳  
農薬を調整・散布する時は、マスクなど防護装備を正しく着用